

# 日立グループ、AMD PRO採用でグローバルな従業員コンピューティングをモダナイズ

## ケーススタディ

日立グループは、AMD Ryzen™ PROプロセッサを利用し、コスト最適化とグローバルDevice-as-a-Serviceインフラ拡充を推進

**AMD** × **HITACHI**

日立グループは、グループ全世界47か国で28万人を超える従業員を擁しています。日立グループの社内ITを支えるITデジタル統括本部は、「ITによる事業貢献をめざすグループコーポレート組織」として活動しています。特に日立グループのクライアント戦略としては「世界の日立グループの仲間たちに最高のEX(経験)を」を掲げ、従業員の生産性とモチベーションの向上とともに、コスト最適化やオンボーディング対応を含めたアジリティの向上、セキュリティ対策の向上、AI PCの普及促進などを進めています。

### 業務要件や市場環境の変化

コロナ禍を経て、日立グループでもオンライン会議やクラウドアプリケーションの利用が急増し、VDI(仮想デスクトップインフラストラクチャー)およびシンクライアント端末を中心としたグループITインフラでは、実務の応答性の確保が難しくなっていました。

また、世界的な部材価格の高騰により、クライアント調達コストが上昇していく中、運用を含めたIT予算全体の最適化も重要課題となっていました。

### 戦略と課題

このような中、事業貢献と従業員への最高のEX提供の実現に向け、ITデジタル統括本部は2つの戦略フォーカスを打ち出しました。

1つは、DaaS(Device as a Service)の拡大です。DaaSは自社でPCを購入、運用管理するのではなく、サブスクリプションで調達からキitting、運用、ホワイトニング、廃棄までのLCM(Life Cycle Management)をカバーできるので、日立グループ内で重複していた運用を含めたトータルのIT予算を合理化できます。さらに、LCMに必要なIT人材を、DXなどの事業貢献に重要な分野にシフトが可能となります。国内だけでなく、グローバルにDaaSを拡大することで、さらなるコスト集約効果が見込めます。

「AMDは従来世代のハードウェアとの価格競争力を保ちながら、プロセッサやグラフィックスで信頼できる性能を発揮していました。」

日立製作所ITデジタル統括本部エンプロイーエクスペリエンス本部  
UXソリューション部長高橋幸喜氏

しかし、従業員EXの観点からは、最短3日での納品、最短10分での業務開始や、安心安全に利用できるグループセキュリティ基準などの業務要件を満足させる必要があり、部材価格高騰の中でも安定した部材確保が可能な高性能クライアントの選定が重要となっていました。

### 業界 工業

### 課題

日立は、デバイス価格上昇への対応と、従業員の日常ニーズを満たさなくなったVDIのリプレースを進めつつ、47か国の従業員EX(経験)の向上を推進

### 解決策

日立は、AMD Ryzen™およびRyzen PROプロセッサ搭載LenovoノートPCをDaaSの標準とし、ローカル性能の向上と、一貫して管理可能なグローバルEXを提供

### 結果

日立は、85,000台のシステム展開規模で顕著なコスト削減を見込み、グローバルな展開に向けた信頼を検証。2025年度内にはAMD CPU搭載PCのグループ内シェアは50%を超える見込み。

### AMDテクノロジー概要

AMD Ryzen™ 5 4500U  
AMD Ryzen™ 5 5600U  
AMD Ryzen™ 5 7535U  
AMD Ryzen™ 5 PRO 7730U

### テクノロジーパートナー

**Lenovo**



## 日立グループはAMD Ryzen™プロセッサを標準とし、DaaSの拡充、従業員EXの向上とコスト管理を推進

それに叶うもう1つの戦略フォーカスが、リモートワークなどに变化する業務環境の中で、継続的な高負荷に対応できるローカル処理性能を満たし、かつデータ揮発性などのセキュリティ要件にもフィットする高性能、高品質そして高いコストパフォーマンスのPCの採用と、そのグループ内標準化でした。

### AMD搭載PCの採用とグループ標準機化

ITデジタル統括本部は、検討の結果、まずシンクライアントを置換えるデータ揮発型PCとしてAMD Ryzen™ プロセッサ搭載Lenovo ノートPCを採用することを皮切りに、以下のAMD Ryzen™プロセッサ搭載PCをOA用途向けの日立グループ標準PCとして採用されました。

- AMD Ryzen™ 5 4500U
- AMD Ryzen™ 5 5600U
- AMD Ryzen™ 5 7535U
- AMD Ryzen™ 5 PRO 7730U

ソフトウェアはMicrosoft 365 Apps、Microsoft Endpoint Configuration Manager、Microsoft Intuneを共通スタックとして整備し、全世界47か国で一貫したユーザー体験と管理性を確保しました。

「コストの優位性と業務に支障がない安定した性能を持つAMDプロセッサ搭載PCを標準デバイスとすることで、ハードウェアを全社的なIT目標に合わせる事ができました。」

日立製作所ITデジタル統括本部  
エンプロイーエクスペリエンス本部  
UXソリューション部長高橋幸喜氏

この移行判断について、ITデジタル統括本部 エンプロイーエクスペリエンス本部UXソリューション部長高橋幸喜氏は次のように述べています。「AMDは従来世代のハードウェアとの価格競争力を保ちながら、プロセッサやグラフィックスで信頼できる性能を発揮していました。」

標準デバイスとして採用したAMD Ryzen™ PRO搭載PCは、需要変動がある状況でも安定したグローバル供給を維持できる点が評価されており、DaaSが求める短いリードタイム運用にも合致しています。

そして、調達コストと運用コストの双方で大きな利点をもたらしています。ITデジタル統括本部の試算では、AMD搭載PCは従来利用していたプロセッサと比較して1台あたり約5,000円のコスト優位があり、約85,000台の調達規模では総額約4億2,500万円の削減効果につながります。高橋氏は、標準デバイス刷新の効果について次のように述べています：「コストの優位性と業務に支障がない安定した性能を持つAMDプロセッサ搭載PCを標準デバイスとすることで、ハードウェアを全社的なIT目標に合わせる事ができました。」

### グローバル47か国への展開と信頼性の検証

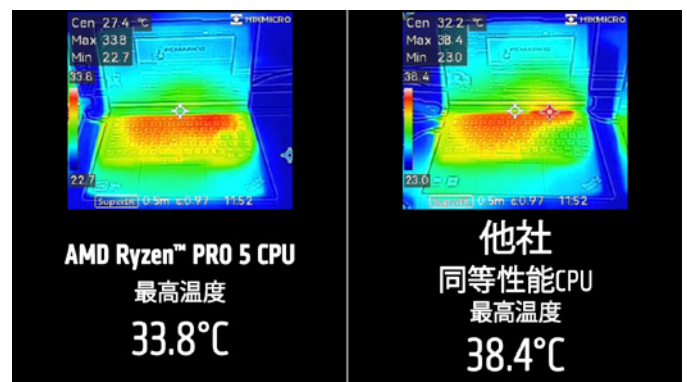
ITデジタル統括本部が採用したAMD搭載PCは、日本だけでなく、世界中で活動する日立グループ従業員にとっての標準機であり、その従業員EXを満足させる上で、ユーザーによる利用上の懸念の払拭が必須でした。世界各地の業務環境は大きく異なり、とりわけ東南アジアやインドなど高温・高湿度地域では、端末の発熱や動作安定性への懸念が寄せられていました。

この課題を解決するため、日立グループは同一筐体（Lenovo ThinkPad E14）を使用した実機による比較検証を自社で実施しました。AMD Ryzen™ PROプロセッサ搭載モデルと競合プロセッサ搭載モデルを通常の業務負荷で連続稼働させ、CPU温度・安定性・パフォーマンスを横並びで評価した結果、AMD Ryzen™ PROプロセッサ搭載モデルは最大温度33.8℃、競合機は38.4℃と、AMDの方がより低い温度で安定動作することが確認されました。

この差は、特に気温が高い地域において端末の体感性能や信頼性に直結する重要なポイントでした。高橋氏は、次のように述べています。「実際の使用環境に基づく温度データを示したことが、各地域の理解を得るうえで大きな決め手となりました。」

この検証により、日立グループはグローバルにAMD搭載PCを標準デバイスとして展開するための技術的信頼性を確立しました。

2025年9月時点で、AMD搭載PCの日立グループ内シェアは49%に達し、2025年度中には50%超（約15万台）に達する見込みです。



通常想定される負荷状況において、AMDは低いCPU発熱量を示す

## AI PC拡大による生産性向上

ITデジタル統括本部は、将来の日立グループ業務生産性向上に向け、AI PCの本格導入を進めています。特に、ローカルAIエージェントを活用できるデバイスレベルの環境整備により、安全性を確保しながら、定型業務の自動化や高速なAI支援を実現することで、業務の即応性や効率性を高める狙いです。高橋氏は次のように述べています。「AIの進歩が文書作成や承認プロセスを加速し、大きく日立グループ全体の生産性の向上につながると思っています。」

AI PCは、生産性だけでなく、AI処理をNPUが低消費電力で処理することで、省電力による環境負荷軽減と、バッテリー小型化によりPC軽量化が進むことでモバイルユースでの利便性向上も見込まれます。

ITデジタル統括本部は、2027年度末までにDaaSで提供するPCの50%をAI PCに移行する計画を掲げています。加えて、現場での活用を推進するためにAIアンバサダー制度を導入し、各業務現場での具体的な成功事例や活用事例を社内共有する取り組みも進めています。

AMD搭載PCも、データセンターCPU・GPU・NPU技術を継承し、機密を端末内で守る高速かつ低遅延ローカルAIを実現するAMD Ryzen™ AIへと進化し、今後も日立グループのグローバル業務における生産性向上と意思決定のスピードアップを支える重要な柱となって参ります。



日立のリーダーシップは、AMDとともにAI PC採用を加速し、グローバルな生産性をサポート



AMD PROプロセッサによりもたらされる  
メリットを知る

サインアップしてビジネスコンテンツを  
ご購入ください:

[www.amd.com/ja/preferences/sign-up.html](http://www.amd.com/ja/preferences/sign-up.html)

### 日立製作所について

日立製作所は、デジタルシステム&サービス、エナジー、モビリティ、コネクティブインダストリーの分野において、IT、OT、および製品を組み合わせたグローバルな社会イノベーション事業を展開する企業です。世界中で約28万人の従業員を擁しています。日立グループにおいて、コーポレートITデジタル部門は、各ビジネスユニットやグループ会社のITチームと連携しながらITを統括し、ITおよびデジタル技術による成長の促進、ITコストの削減、セキュリティリスクの管理のための共通施策を展開しています。ヨーロッパ、アメリカ、中国、インド、シンガポールでIT部門を担うゼネラルマネージャーが、世界規模での標準化を主導しています。詳細については [hitachi.com](http://hitachi.com) をご覧ください。

### AMDについて

AMDは50年以上にわたり、ハイパフォーマンスコンピューティング、グラフィックス、視覚化テクノロジー[A1.1]の革新を推進してきました。世界中の何十億もの人々、フォーチュン500のトップ企業、最先端の科学研究機関は、生活、仕事、遊びを向上させるために、日常的にAMDのテクノロジーを活用しています。AMDの従業員は、ハイパフォーマンスで適応性に優れたプロダクトの開発に日々取り組み、限界に挑戦しています。AMDは現在を見据えながら、未来を形成しています。詳細については、AMD (NASDAQ: AMD) の [ウェブサイト](#)、[ブログ](#)、[LinkedIn](#)、および [X](#) ページをご覧ください。

### 免責条項

すべてのパフォーマンスとコスト削減効果の記載は日立により提供されたもので、AMDが独自に検証したものではありません。パフォーマンスやコストの優位性は、さまざまな要因の影響を受けます。ここに示された結果は日立独自のものであり、一般的ではない可能性があります。GD-181

<本書に記載されている情報は、情報提供のみを目的としており、予告なく変更される場合があります。本書の作成にあたってはあらゆる予防措置を講じていますが、技術的な不正確さ、省略、誤植が含まれている可能性があり、また、AMDは本情報を更新または修正する義務を負いません。Advanced Micro Devices, Inc. は、本書の内容の正確性または完全性に関して一切の表明または保証を行わず、本書に記載されているAMDのハードウェア、ソフトウェア、またはその他の製品の動作もしくは使用に関して、非侵害性、商品性、または特定目的への適合性に関する黙示の保証を含む、いかなる種類の責任も負いません。本書は、黙示的または禁反言によって生じるものを含め、いかなる知的財産権に対してもライセンスを付与するものではありません。AMD製品の購入または使用に適用される条件および制限事項は、当事者間で締結された契約書、またはAMDの標準販売規約に定められています。GD-18u。>

### 商標情報

© 2026 Advanced Micro Devices, Inc. All rights reserved. AMD、AMD Arrow ロゴ、Ryzen、Threadripperおよびその組み合わせは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。この資料に含まれているその他の製品名は識別目的のみに使用されており、それぞれの所有者の商標である可能性があります。一部のAMDテクノロジーでは、サードパーティによる有効化またはアクティブ化が必要になる場合があります。サポートされる機能はオペレーティングシステムによって異なる場合があります。具体的な機能については、システムメーカーにお問い合わせください。完全に安全なテクノロジーや製品はありません。